

1 単元構想

本単元で身に付けたい力

遊び方を説明するために、語と語や文と文との続き方に注意し、内容のまとまりが分かるように書く力

言語活動とその特徴

本単元では、自分の作ったおもちゃの遊び方を一年生に説明するための文章を書くという活動を設定している。一年生がおもちゃを使って遊ぶことができるように説明する文章を書くという課題意識を持たせることで、構成や書く順序、使う言葉に気を付けて書くことができると考える。また、一年生に届くまでによりよい文章にしたいという気持ちを高めることができるだろう。

教材の特質

本教材は、手作りおもちゃの遊び方を説明するために、書くことをカードに整理し、カードに書いた内容をつないで文章に表すという構成になっている。また、書いた文章を読み返して推敲を行う活動も設定されている。生活科でのおもちゃ作りの単元と関連させることができ、子どもたちが主体的に楽しんで学習できる教材である。

児童の実態

児童はこれまでに、事柄の順序や時間の順序に沿って文章を書くこと、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫する学習を行ってきた。それらの学習を通して、文章を書くときは、はじめ・中・おわりや内容のまとまりを意識して書くことができるようになってきた。年度当初に行った標準学力調査の書くことの領域で全国平均正答率 80.7%のところクラス平均正答率は 90.1%であり、上回ることができていた。  
しかし、思いついたことをそのまま文章にする児童や主語と述語がねじれてしまう児童もおり、分かりやすく意味の通る文章を書くことにはまだ弱さが見られる。

指導観

第一次では、生活科で作ったおもちゃを一年生にも貸してあげたい、楽しく遊んでもらいたいという気持ちを高め、説明を書く必要性を感じて学習に入るようにする。  
第二次では、経験をもとに説明に必要な事柄を書き出し、相手や分量に応じて取捨選択し、順序を決める活動を行う。そして、メモに整理したことを文章に表す方法を記述し、読み返すことを繰り返しながら学んでいく。その際、自分の文章は、「一年生に伝わるか」「一年生が遊びたい気持ちになるか」を視点に読み返すようにする。最後には、チェックリストの項目を自分たちで見直し、その項目に沿っているかを確認できるようにする。  
第三次では、書いた文章を読み合い、自分の文章の良くなったところを確認し合うことで、文章を読み返し、よりよくしていくことの重要性を実感させたい。

2 単元の目標及び単元の評価規準

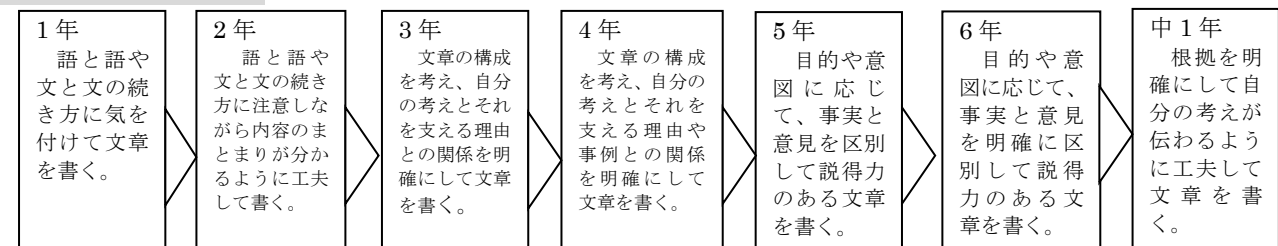
(1) 単元の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。(2)ア	「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。Bウ 「書くこと」において、文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすることができる。Bエ	言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする態度を養うことができる。

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア	「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。Bウ 「書くこと」において、文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。Bエ	進んで、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫し、よりよい文章にするために、何度も読み返しながらかこうとしている。(自分の経験と繋げて、適切な言葉を使おうとしている。)

3 単元の系統性



4 研究主題に迫る手立て

研究主題: 目的に応じて必要な内容を整理し、自分の考えを明確にして書く力を高める学習指導の在り方  
—文章の種類や特徴に応じた書き表し方の工夫—

- 「おもちゃの遊び方の説明を一年生に伝わるように書く」という目的意識を持たせることで、書く事柄や書く順序を考えることの必要性を感じながら学習を進めることができるようにする。
- より分かりやすい説明の文章にするために、生活科と関連させ、書いた内容や表現方法を確かめることで、使う言葉や書き表し方を工夫して書くことができるようにする。

5 学習の流れ

学習過程	主な学習内容及び学習活動	【 】評価規準・○指導上の留意点	言語活動	言葉による見方・考え方の成長
学習目的の理解と見直し	<p>① 一年生が自分の作ったおもちゃで遊ぶためには、説明が必要なことに気付き、ゴールを確認する。</p> <p>② どんなことを説明すればおもちゃの遊び方が伝わるか考え、付箋に書き出し、整理する。</p> <p>③ メモをもとに、一年生に遊び方を説明する文章を書く。<b>【本時】</b></p> <p>④ 一年生に遊び方がより伝わる文章にする方法を出し合い、内容のまとまりを意識して文章に書く。</p> <p>⑤ 書いた文章を読み返し、一年生に伝わる文章になっているか、遊びたい気持ちにさせるかを確かめる。</p> <p>⑥ 推敲チェックリストを使って、文章を完成させる。</p>	<p>○説明を書くことの必要性に気付くよう支援し、明確な目的や相手意識を持って活動できるようにする。<b>【主】</b></p> <p>○自作のおもちゃを手元に置いておき、説明に必要な事柄を考えたり、遊び方の順序を確かめたりできるようにする。<b>【知・技(2)ア】</b></p> <p>○相手を意識させることで、使う言葉を選んだり、必要な言葉を付け加えたりできるようにする。</p> <p>○一年生がより楽しく遊ぶことができるように遊び方コツや気を付けることを書き加えられるようにする。<b>【思・判・表Bウ】</b></p> <p>○文章の終わりにどんな呼びかけを入れると一年生が遊びたい気持ちになってくれるかを考えられるようにする。</p> <p>○チェックリストの項目を自分たちで見直し、自分の文章がその項目に沿って書けているか確認できるようにする。<b>【思・判・表Bエ】</b></p>	<p>自分の作ったおもちゃの遊び方を一年生に説明するための文章を書く。</p>	<p>一年生に大切に使うために遊び方の説明書があるね。説明書には、遊び方や楽しく遊ぶコツを書くといいね。一年生がケガをしないように気を付けることも入れよう。</p> <p>遊ぶときには、まずひもをひっかけるから付箋には、「ひもをかける」って書けばいいね。することを順番に書き出していけば、おもちゃの遊び方を上手く一年生に伝えられそうだ。</p> <p>「右、左、右、左と動かしします。」のところに「交互に」という言葉を足した方が動かし方が分かりやすいね。</p> <p>「はやく動かすと、かめが速く動く」って書いたら、大きく引っぱると速く長く進むから「下に大きく引っ張ると速く動きます」に変えようかな。</p> <p>文章の終わりに「ひもの長いかめにもチャレンジしてください。」って書いたら一年生はワクワクしてくれるかな。それとも「友だちと競争しても楽しいよ。」の方がいいかな。</p> <p>読み返してみると、「交互」という言葉を使ってよかったな。順序を表す言葉も使っているから、遊び方もよく分かる文章になっているよ。これで一年生は楽しく遊べることまちがいない!</p>
	<p>⑦ 書いた文章を読み合い、学習を振り返る。</p>	<p>○自分の文章の良くなったところを確認することで、推敲して読みやすく正しい文章にすることの大切さを実感できるようにする。<b>【主】</b></p>		
理解と表現の螺旋的な学び	<p>題材の設定</p> <p>内容の検討・構成の検討</p> <p>考えの形成・記述</p>	<p>推敲</p> <p>共有</p>	<p>表現活動・単元の振り返り</p>	

本単元終了時の目指す児童の姿

- 相手を意識し、自分の経験とつなげて、書く事柄や書く順序を考えようとする姿
- 自分の文章をよりよくするために、何度も読み返し、使う言葉や書き表し方を工夫しようとする姿

6 本時の学習 (3/7 時間)

(1) 目標

メモをもとに、遊び方をくわしくする言葉を考え、文章を書くことができる。

(2) 展開

学習過程	学習活動及び学習内容	主な発問等 (※) 予想される児童の反応 (○)	指導上の留意点 (●) 評価規準及び評価方法 (☆)
学習目的の理解	1. 今までの学習を想起する。	○メモのままでは、一年生におもちゃの遊び方は伝わらないね。 ○説明する文章を書くときは、メモより言葉を付け加えないといけないね。	●メモのままでは、一年生に遊び方が伝わらないことを確認し、言葉を付け足しながら文章にする必要性を感じさせるようにする。
		めあて 遊び方をくわしくする言葉を付け足して、文章を書こう。	
表現 (個人)	2. カードをもとに文章を書く。	○何から書き始めればいいのか。 ○「まず、ひもをひっかけます。」に「どこを」足した方がいいかな。 ○段落はつけた方がいいのかな。	●まずは書かせることで「分かりやすく説明するにはどのように書けばいいのか」という問いを児童に持たせるようにする。 ●自分のおもちゃに触れるように近くに置いておく。
内容・構成の検討 (全体)	3. 分かりやすく説明するための文章の書き方を考える。	※メモと文章を比べて良かったところはどこですか。 ○「ひもを持つ。」が「ひもの端を右手と左手に持つ。」になっていて、言葉が足されて分かりやすくなっているよ。 ○「ビー玉を動かす。」を「ビー玉を転がす。」にしたから分かりやすくなった。	●メモと文章を書画カメラで写し、付け足した言葉や変えた言葉に着目させる。 ●必要に応じて、教科書のメモや文章を使って、書き方を確かめる。 ●友だちの良かったところや教科書の例文を板書に残し、分かりやすい文章の書き方のポイントを確かめられるようにする。
推敲・表現 (個人・ペア)	4. 自分の文章を見返し、書く。	○私も「～を」を足せば分かりやすくなるかな。 ○この言葉より分かりやすい言葉はないかな。	☆一年生に遊び方を説明するために、経験と繋げて言葉を選んだり、言葉を付け足したりして文章を書いている。 【思・判・表 Bウ】(ワークシート・発言) ●最後にペアで読み合い、遊ぶことができるか試してみることで、上手に書けているところと不十分なところを確かめられるようにする。
振り返り	5. 振り返り	○私は、カードには「ボールを置く。」と書いていたけれど「スタートに」を付け足すことができました。メモのときより一年生に遊び方が伝わるようになったと思います。	●自分の文章を読み返し、遊び方をくわしくするためにどこにどんな言葉を付け足したのかを書くようにさせる。

(3) 板書計画

今日できたことと明日がんばりたいこと

ふりかえり

困っていること

良くなったところ

めあて

一年生に100倍楽しく遊んでもらおう!

文章(ヨットカー)の拡大

カード(ヨットカー)の拡大

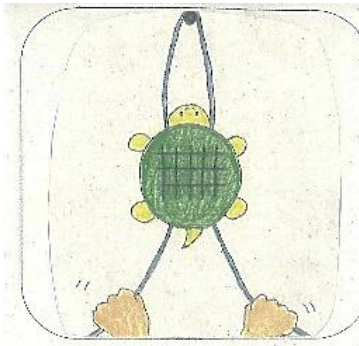
カード→文章  
言葉を付け足す

遊び方をくわしくする言葉を付け足して、文章を書こう。

(4) 準備物

カード, ワークシート, 書画カメラ

言語活動のモデル



山のぼりかめさん

とりあつかいせつめい書

名簿 小じま みさき

山のぼりかめさんは、かめをうごかしてあそぶおもちゃです。山のぼりかめさんのあそび方についてせつ明します。

まず、ひものわっかになっっている方をひっかけます。つぎに、ひもの下にかめがぐるようにします。それから、ひものはしを右手と左手にもち、右、左、右、左、とこうごに下にくごかします。手をはやくうごかすと、かめがはやくうごきます。ひもがからまないように気をつけましょう。

二人や三人で、だれが先に上まで行くことができるか、をききようとするのもっとたのしいです。